



「金祝」後をどう生きる
～人生の大きな節目～



藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

一昔前は人生五十年と言われた。しかし今は男女とも平均寿命八十年を超える時代となる。以前は結婚生活五十年は珍しく、金婚式を祝つたが、今はもうそんな時代ではないかも知れない。

私も四月で結婚五十年を迎えた。金婚式はしなかつた。金婚式という言葉があるのに、広辞苑に「金婚」という言葉はない。

カトリック教会では修道生活五十年などを「金祝」として祝う。七十五歳になり、後期高齢者の仲間入りと時を同じくして結婚五十年を迎えたので、金祝としてこの大きな節目に、これからどう生きるかと、数ヶ月いろいろと考えた。

そして二つの目標をたてる。一つは未来に希望を持ち続けながら生きるために、死後の復活を信じ、「イエス・キリスト」に賭けた信仰に生きる努力をする

カルメリットと金祝ミサのあと面会室で

人生はある意味で生きるのであるが……私が住む百世帯にもならない団地で最近、空き家が目立つ。配偶者に先立たれ、一人住まいをしていた人が施設や子供のところ行くからだ。高齢者がどう生きるかは社会問題となっている。つまり、私がいえば金祝後をどう生きるかが最大の課題である。

金婚式はしなかつたが、記念すべき節目を二人の娘と一緒に五月の連休を利用してドロップセーデーである。カルメル会で金祝ミサを捧げ、山口の

こと。もう一つは家族のきずなを中心とした隣人との共生・共感を共有する生き方をすることである。



2015/05/05

カルメ

フランクフルトのレーマー広場

三人の子供たちが金祝を祝つて家族旅行を計画してくれた。時々、もうこの「巡礼の道」を書くのを止めようかと思うが、子供たちはこれ

を高く評価してくれており、一緒に旅をするのは巡礼の道を書き続けろというメッセージである。

この旅の中でサップライスがあつた。その話を中心に「金祝ドイツの旅」と「金祝東京の旅」を書くことにした。この人生の大きな節目に、これから新しいのを得るまで、老いをどう輝いて生きるかを考えみたい。